

豆句集



その六粒目  
2015年立夏号

## 目次

### \*俳句

扉は開く 梅津志保 …2

白つめ草の夜 井上雪子 …4

父の歩幅 吉野裕之 …8

### \*エッセイ

心動くデザイン 梅津志保 …10

簡素という力 井上雪子 …11

### \*メッセージ

デザインの力・届ける視点 …12

## 豆句集

豆句集 みつまめ  
2015年立夏号（通巻第6号）



みつまめ

扉は開く  
梅津志保

東京を掘る音眠り三が日

破魔矢振る背中の子から高き空

ケーブルカー扉は開く冬の星

手渡しの梅の香るや助手席に

春昼の隣に習うかぞえ唄

春眠の海の過ぎ行く車窓かな

屋根にいるおとこに呼ばれ春うらら

古柱背もたれにして桜かな

新色の口紅ルージュ求めて三月や

信号を待つ月曜日燕来る

白つめ草の夜

井上雪子

降りだして春の水紋美しく  
春早々守宮やもりの卵見に行けり  
見送つてひとり戻りぬ夕桜  
光ひに育つ満天星どうだん躑躅つっじの白きこと

八重桜咲くねむたさや其処ここに  
花ざかり卓布は白き域となり  
目に青葉スローバレード身に充つる  
僕の眼が抉えぐりしhandicapハンデこどもの日

なるやうになる青梅よ雨を見ゆ

沖繩忌Smartphoneスマホに託さぬ海のいろ

一隅はドクダミ真白でありにけり

夏蝶の蜜場や母語のまろき音

積乱雲捨てる昨日や踏む明日

フラッペ  
frappé や 働く意味が薄まれり

野晒の国やいつしか船も背も

置き去りのところを包む蟬時雨

笑ふたび光を撥るかふと虫

Voyager 1 白 つめ草の夜は旅

かなかなの遠い静けさ遠いひと

朝顔やほどく振れを高く見ゆ

見よと云ふ坂にゆつくり秋の海

frappé (フラッペ) : シャーベット状の氷菓子

Voyager 1 (ボイジャー1号) : NASAの無人宇宙探査機。

1977年打ち上げ、2015年飛行中、星間の音を送り来る。

Voyagerは航海者の意。

## 父の歩幅

吉野裕之

退屈の時間を遣つて紅梅の  
落ちてゐて椿を逃げる形かな  
花冷えの非常階段からふたり  
日が戻るまでの話と苜蓿

パンジーが父の歩幅を知つてゐる

照屋佳信氏の

カラカラの樟の若葉と笑ひけり  
遠くから来た人の靴アマリリス  
午過ぎの目高たくさん六月来  
梅の実のジャムになるまで二、三日  
グラジオラス老いたる影の真つ直ぐに

●心動くデザイン◎梅津志保

冬。タンスの中は、黒やグレーの無地の服が並び、やや暗い。春が近づいたある日、リーフ柄の明るい色のスカートを買ってタンスに収納しようとしたその時、タンスの中が明るくなったことに私の心が動いた。改めてデザインが持つ力に気がつき、「デザイナー芹沢銈介の世界展」に行ったこと、「鯛泳ぐ文着物」に圧倒され、とても好きになり、会場である横浜高島屋に二回足を運んだことを思い出した。

「鯛泳ぐ文着物」。大小、形の違う鯛が、赤地の着物に何匹も整然と配置され

●簡素という力◎井上雪子

成仏じやぶつや夕顔ゆがなの顔へちまの尻しつぽ

正岡子規の著書『仰臥漫録』にはこんな尾籠な俳句がひよっこり出てきて、心底驚嘆する。「一字の助字じよじ『や』と『も』とがどう間違ひたりとて句の価にいくばくの差をも生ずる者にあらず、そんな出過ぎた考を起さうよりも先づ大体の趣向に今少し骨を折るべし」（『墨汗一滴』）。俳句という表現の本質が驚嘆みにされ、小手先の愚をたしなめる。

他方、妹の悪口、身体の痛みに絶叫する自分、庭や食べ物や玩具、旅…、ことの大小に囚われず、取り繕われない無邪

ている。それは、他には無いものだと思っただが、この作品の素晴らしさは何か。それは、素材の持つ美しさ、魚の色や形の力強さを見つけ、磨かれた自分の美意識や視点が整然とした配置や巧みな技術として着物という身近な型に注がれて、誰も見たことが無い世界を作り上げている、ということではないだろうか。

俳句は、季節ごとの美しさを受けとめ、自分らしい視点から核を見出し、受け継がれてきた技術を使い、十七音の詩型にひとつの世界を作りあげ、届ける。着物のデザインと同じように、日常に十七音の詩型を読み、作ることで、心は動き、暮らしは豊かなものになる。

気さで書き放題に書く。その無尽蔵なエネルギーの不思議に、禅僧であり庭園デザイナーである枡野俊明氏の言葉（『共生のデザイン』）を思い出した。

『簡素』は『煩雑でないこと』。命を可能な限り引きだし生かす。不自由も、逆境も、難題も逆手に取ることができる。たくまな。排除しない。

病床の子規、身体の修行が初めであり終りである禅。あるがままを簡素に、澄んだ心地があればよしという両者の視点は、ともに表現の対象に倚りかからず、届けることに向かっている。

六月を綺麗きれいな風の吹くことよ

（『子規句集』）

## デザインの力・届ける視点



俳句ユニット「豆句集 みつまめ」の活動も、たびたび袋小路に迷います。けれど、美しい何かがまっすぐに届き、受けとめることができた時、明日へ向かう力も届けられていたことに気づきます。

今号では、今日を重くするあれやこれさえ、明るく確かに受けとめていく力を、デザインや表現の視点・こころの在りように学びました。  
小さな歩みを続けます。

### 豆句集



豆句集 みつまめ

井上雪子

梅津志保

Producer \* 吉野裕之

※註

- ・「生誕120年記念 デザイナー芹沢銈介の世界展」  
日本橋高島屋：2014年9月10日～9月23日
- 横浜高島屋：2014年9月25日～10月6日
- 京都高島屋：2015年1月7日～1月19日
- 大阪高島屋：2015年1月21日～2月2日
- 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館：2015年3月17日～6月17日
- ・ 枅野俊明『共生ともいきのデザイン』（フィルムアート社、2011年）
- ・ 正岡子規『仰臥漫録』『墨汁一滴』『子規句集』は、いずれも岩波文庫による。

このファイルはホームページ配布版のため、  
奥付の内容が印刷版のものとは異なります。



## 豆句集 みつまめ

2015 年立夏号（通巻第 6 号）

2015 年 5 月 6 日発行

発行所

みつまめ工房

website >> <http://homepage3.nifty.com/a-un/mitsumame/>

blog >> <http://819mitsumame.blogspot.jp/>

制作：アトリエ云 印刷：啓文社

定価：300 円（税別）